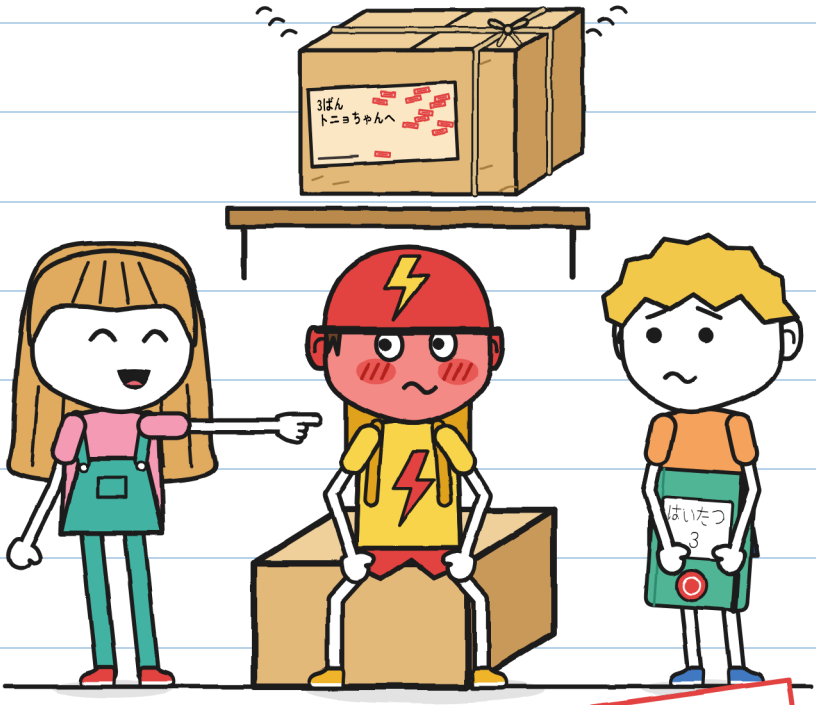
ありえない はいたつ ・ 3

へんそう おねがい

LinguAula



（グニの）

サイズ XS
はじめての どくしょ ・ 5+

ありえない はいたつ・3

へんそう おねがい

文と絵：LinguAula

サイズ XS・はじめての どくしょ・5+

日本語版：LinguAula

初版：2026

© 2026 LinguAula・info@linguaula.com

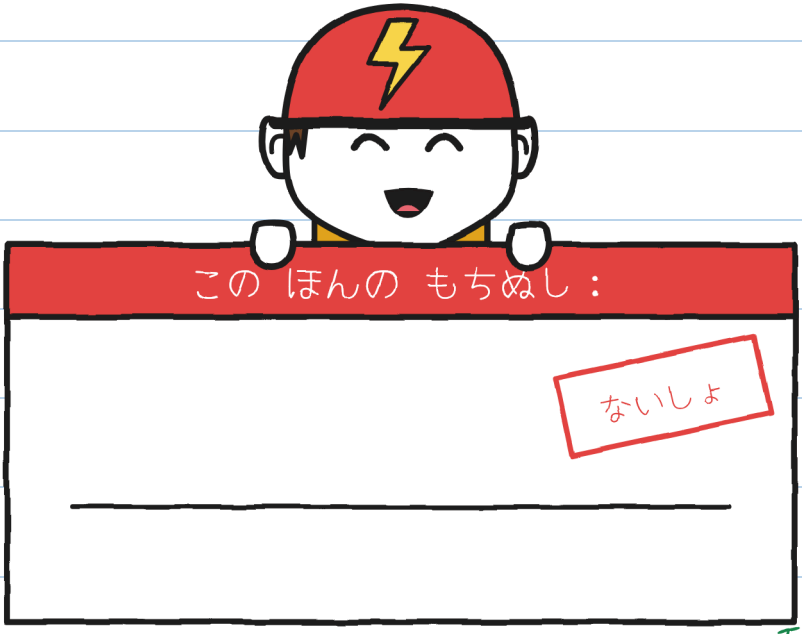
自由にコピーして、学校でも家でも使えます。

シリーズ第3作。

LinguAula

linguaula.comで しょうごとに れんしゅう

ケガは なし。まっかな ひとは いた。 —J.



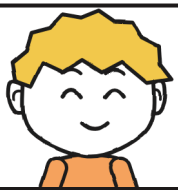
わたしが さきに よむ。 —J.

みつけたら、もどして
ください。おねがい。

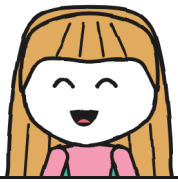
おはなしの なかだけ

ほんものの じてんしゃは 76ページ。 —J.

だれが だれ？



グニは えを かく。



フリータは みどりで かく。



トニョは あかく なる。



マラさんは まじょ。



ゾーイは あだなを つける。



ブルーノは 1かい
パンクした。



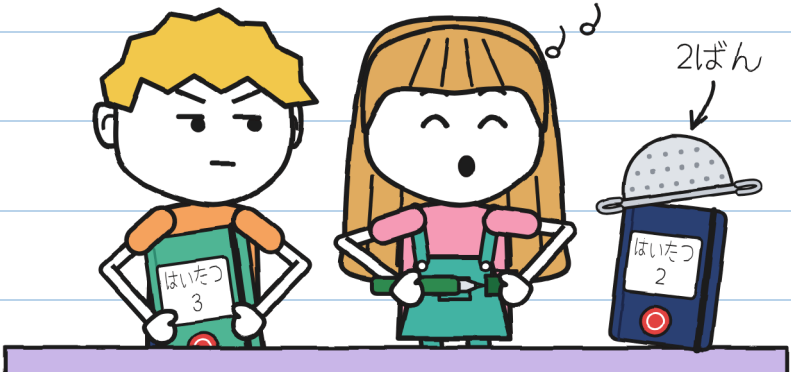
3ばんが なる。



R. なまえは ない。

グニの
はいたつノート3

「ないしょ」。わたしが さきに よむ。 —J.



ノート2は おわった。これは みどり。

フリータが さきに つかった。

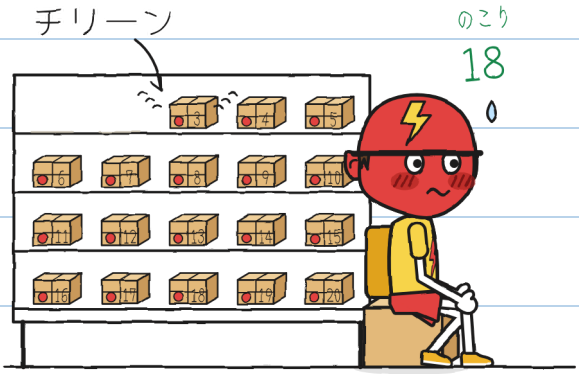
たすける ために。どういたしまして。 —J.

たすけて とは いって ない。

だい1しょう

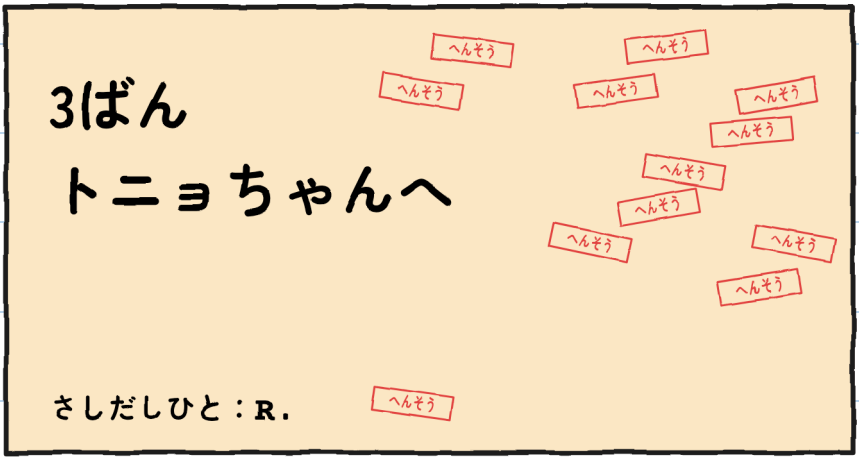
チリーン

マラさんは、だれも　とどけない
にもつを　しまって　いる。
あらしの　よる、にもつが　なった。
チリーン。



3ばんだった。トニョは
あかく　なった。

サインが なければ、へんそうの
にもつは とんで もどる。
サインは うけとる ひとだけ。



フリータが よんだ：
「トニョちゃ……」
だまった。トニョが
あかく なって きた。

ことばの はんぶん だけ よんだ。 —J.

トニョは ぶぶんごとに あかく なる。

トニョの あかメーター



「その にもつは まてる」
と トニョは いった。
「イナズマびんは いそがない」
イナズマびんが まつのは
はじめて だった。

その よる：4。みどりしか ない。 —J.

「きょうは　なにも　あけない」

と　マラさんは　いった。

また　なった：チリーン！

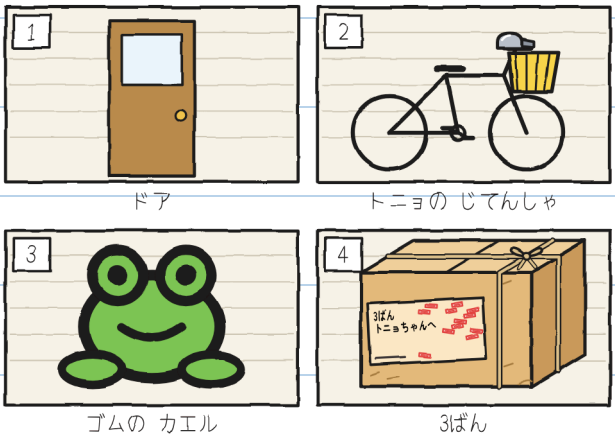
「ドアの　おとよ！」

と　フリータは　いった。

わからない　ことが　あると、

リストを　つくる。

チリーンの　ようぎしゃ



カエルは　わるくない。　—J.

ぼくは みちで おとを ためした。

ドア、ベル、カエル：ギィー、

リンリン！、キュッ。

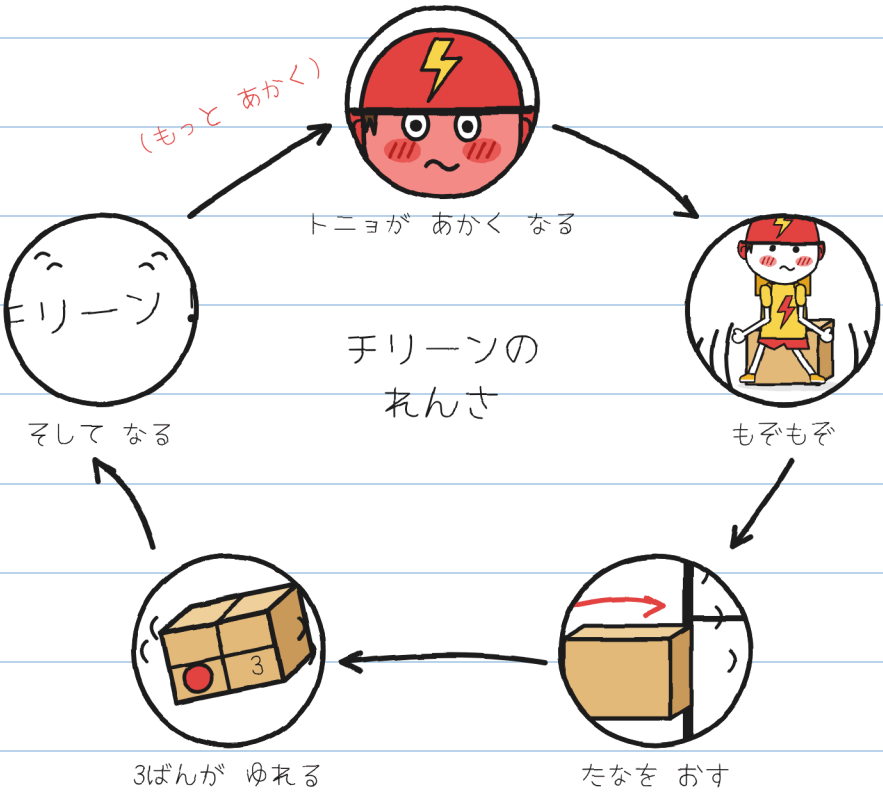


どれも こんな おとじゃ

ない。トニョが うごいた。

チリーン。

トニョの はこは たなに ふれて いた。

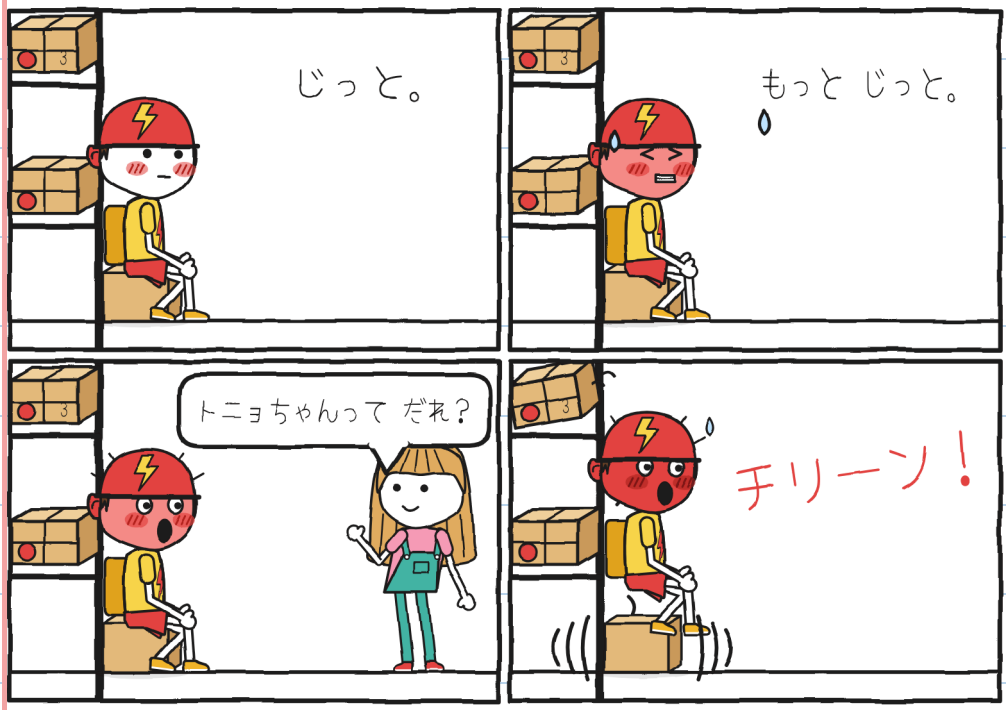


まほうじゃ ない。トニョだった。

にもつの なかで なにかが なる。

わたしと おなじ。 —J.

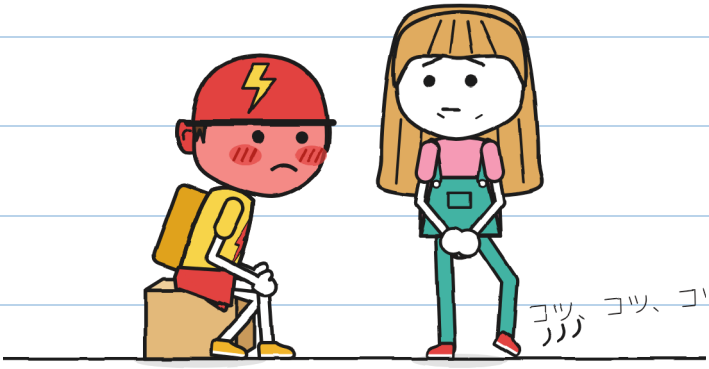
トニョは じっと する ことに
した。もった のは これだけ：



きいただけ。たなは おせない。 —J.

この ひとことは おした。

「ぼくの ことだ」と トニョは
いった。「ちいさい ころの」
フリータは しつもんが
いっぱい。でも くちを とじた。

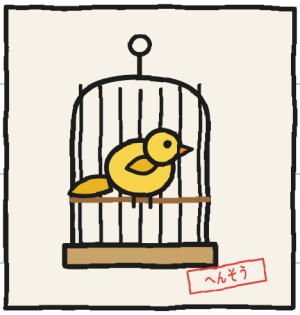


「もう きかない」
と フリータは いった。
あしが うごいて いた。

しなかった しつもん：9こ。 —J.

「どうして とどけなかったの？」
と ぼくは きいた。
「12かい もって いった。みち なし、
ばんち なし、みょうじ なし」

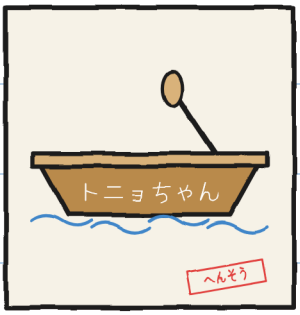
マラさんの トニョちゃんたち



1. カナリア。
（ダメ。）



2. アントニオさん、71さい。
（「そうだと いいんだけどね」）



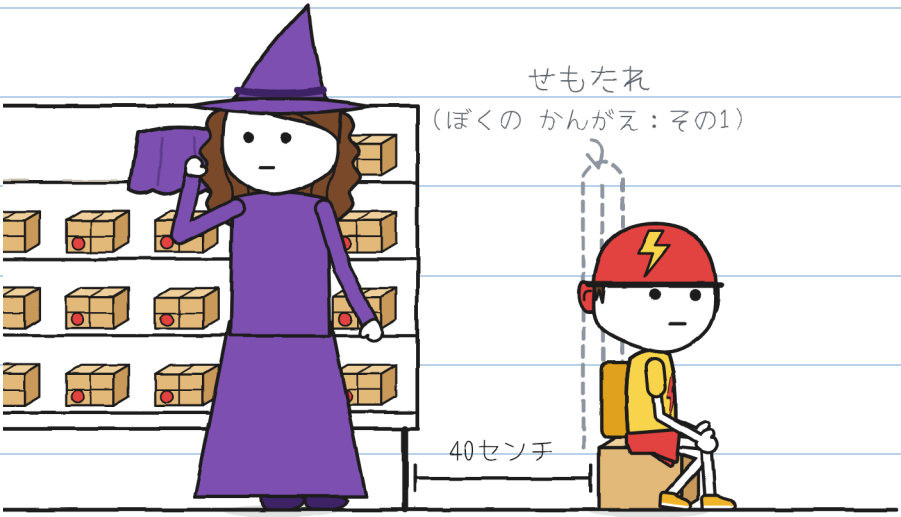
3. うんがの ボート。
（てが ない。）

「トニョは？」と フリータが きいた。
「だれも トニョの なまえを おしえて
くれなかった」と マラさんは いった。

マラさんは 3ばんに ぬのを かけた。

トニョの はこを たなから はなした。

「これで うごいても いいよ」



トニョは じてんしゃで

かえれた。でも また すわった。

せもたれを たのんだ ひとは いない。 —J.

「あした くる」と トニョは
いった。「ひみつで。
イナズマびんの ひとは なし」



にもつは トニョの もの
だった。トニョは ほしいのか？

わたしは もう たすけかたを しってる。 —J.

それが しんぱいなんだ。

だい2しょう

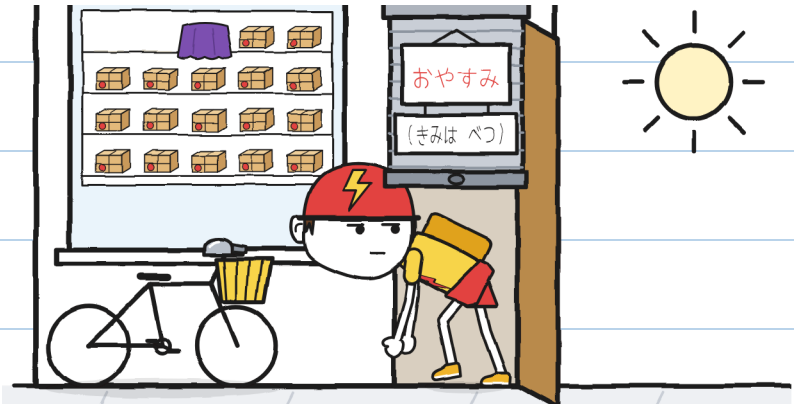
いいとは いって ない

にちようびは おみせが おやすみ。

トニョは 11じに きた。

みぎと ひだりを みた。

イナズマびんの ひとは いない。



わたしたちは もっと はやく

きた。もしもの ために。 —J.

マラさんは 3ばんを

カウンターに おいた。

「ほしい？」

「いいとは いってない」

「いやだとも いってない」

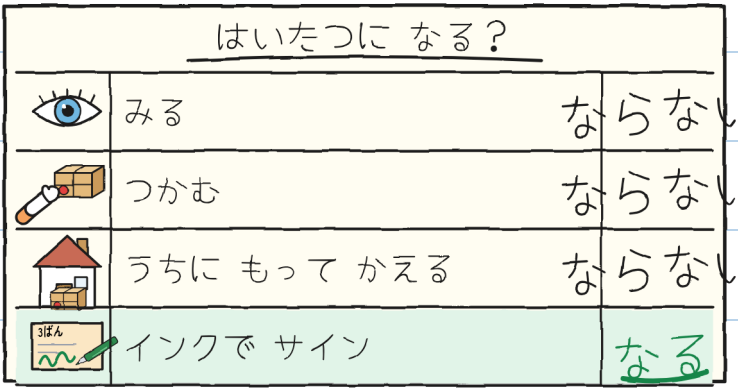
「ぼくは いった。

『いいとは いってない』って」



サインしない ための ことば、3つ。 —J.

トニョは はこを あつい
なべの ように つかんだ。
チリーン。
すぐ はなした。
「もし うちに もって かえったら？」
と フリータは いった。
「はんこは インクで きまる」
と マラさんは いった。

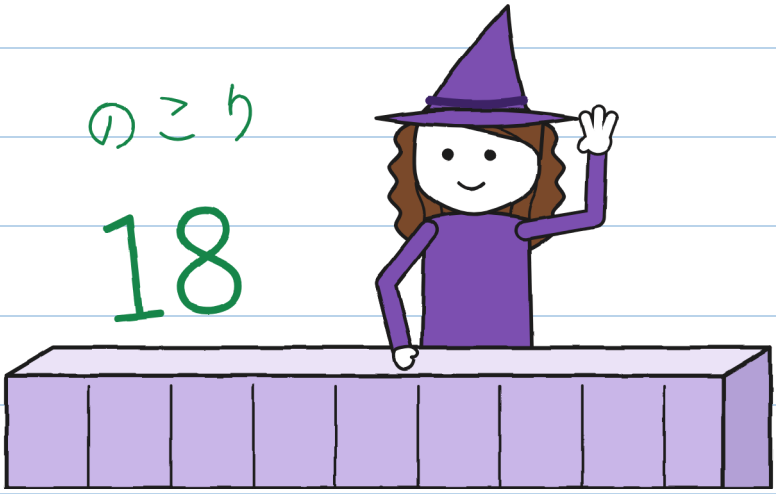


かんがえが ちがう。 —J.

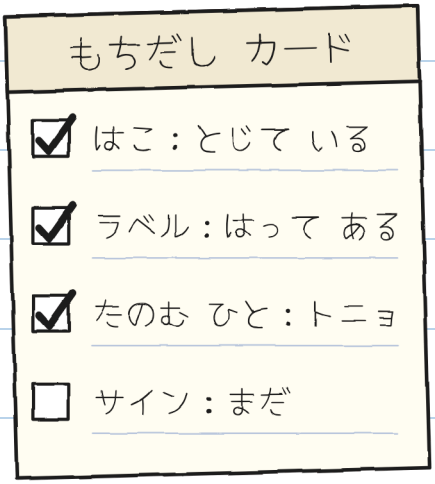
「この はいたつは あなたたちの
もの」と マラさんは いった。
じょうけんは みっつ：

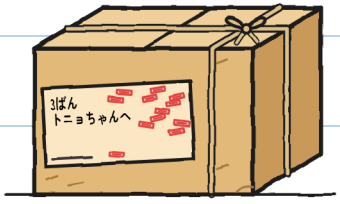
1. はこは とじたまま。
2. トニョが たのむ。
3. サインは、したければ。

「もし ずっと うけとらなかったら？」
「じゃあ、ずっと そのまま」



トニョは 4ふん だまって
いた。イナズマびんの
はいたつの はんぶん ちかく。
「とじた まま もって かえる」
と トニョは いった。
「あなたが たのむの？」
「ぼくが たのむ」
3ばんが でる ところを かいた：





そとで、トニョは 3ばんを かごに
いれた。なった：チリーン。
トニョは イナズマびんの
ベルを みた。
「どうしたの？」
と フリータが きいた。
「なんでも ない」



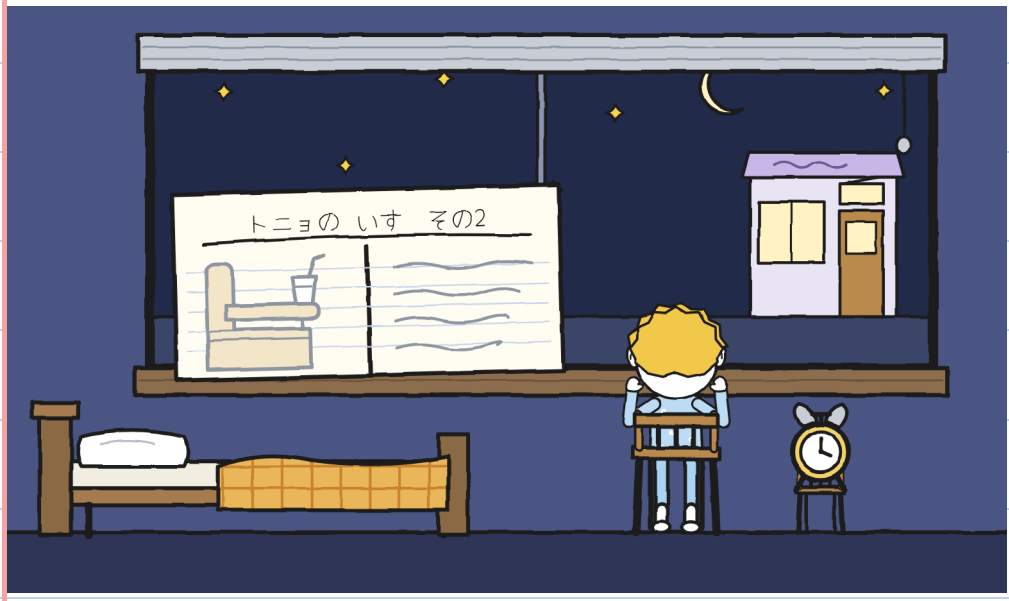
「なんでもない」は「なにか」。 —J.

イナズマびんの じてんしゃが
ふたつ みえた。
「かごに なにが はいってるの？」
と おんなの こが さけんだ。
「はいたつだ」
うそは ついて いない。ラベルを
じぶんの ほうに むけた。



やっと わかった：
イナズマびんの ひとは なし。 —J.

その よる、ぼくは ブラインドを
あげた まま に した。
3ばんが もどるか みたかった。
「おきて なにして るの？」
と おかあさんが いった。
「にもつを みはって るんだ」
「パジャマを きて みはりなさい」

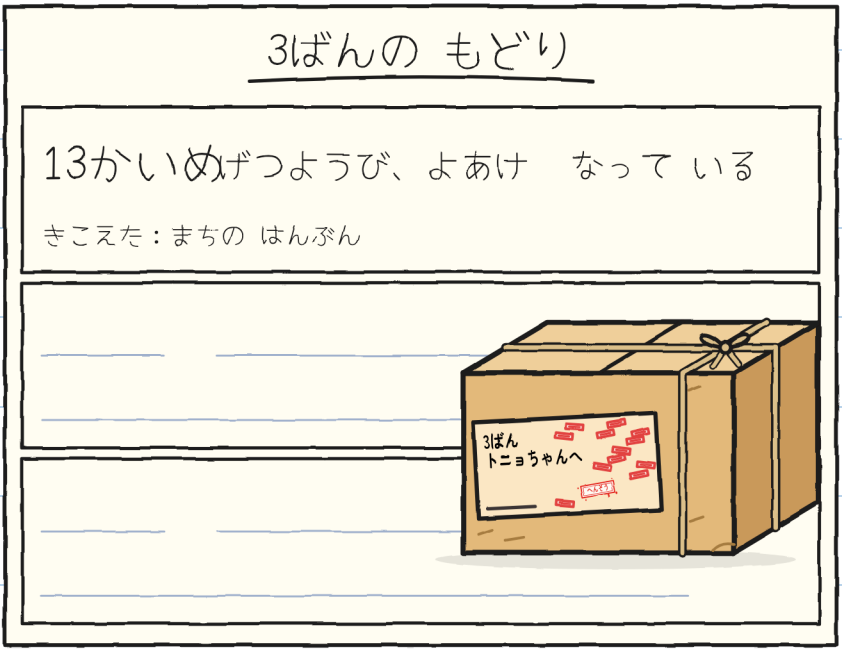


よあけに 3ばんの おとが
きこえた。
チリーン、チリーン、チリーン。
やねの うえを とんで もどって
きた。



ぼくたちは みせに いった。

3ばんは たなに あった。



「ばつじゃ ない」と マラさんは

いった。「きまりだ。だれも

サインして いない から、もどる」

はんこは もう 13こ。 -J.

トニョは はいたつの あとに きた。

3ばんの ことは きかなかった。

トニョが はなして くれた：

トニョの はなし

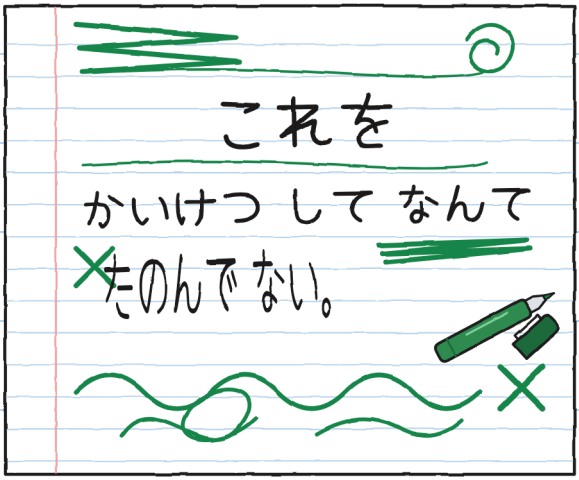


「はこを そとに おいた」

「どうして？」と フリータが きいた。

「うちでは トニョちゃんと よばれる」

「サイン ひとつで ぜんぶ
かいけつ」と フリータは
いった。「2びょうで できる」
ぼくは ノートを ひらいた。
ボールペンで、
ぎゅっと おして かいた：



さんせい できない。 —J.

べつの かんがえが ある。 —J.

だい3しょう

サイン

かようびに、みちに つくえが あった。



「サインを もらう ための
だいよ」と フリータは いった。

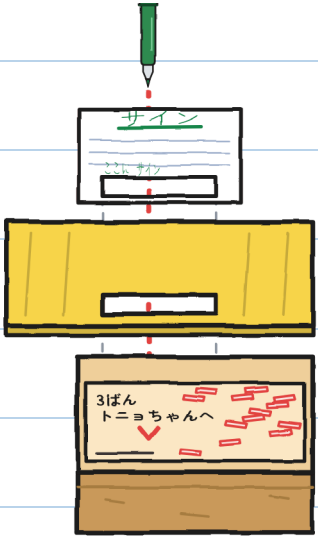
「いつから？」

「きのうから」

サインだいの うえに まどの
ある かみが あった。
それは ねかせた 3ばん だった。

しくみ

1. かみ
2. テーブルクロス
3. ラベル
4. ラベルに サイン



「わたしの ペンで」と フリータは
うれしそうに いった。「あした
3ばんは もどらない。サプライズ！」

「トニョは たのんで いない」

と ぼくは いった。

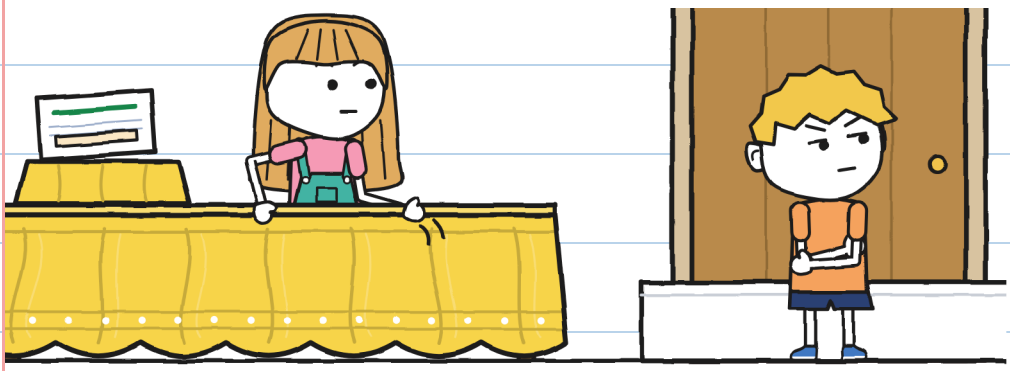
「マラさんは？」

「「サインの つくえ」って いった」

ぼくは フローラの

ことを おもいださせた。

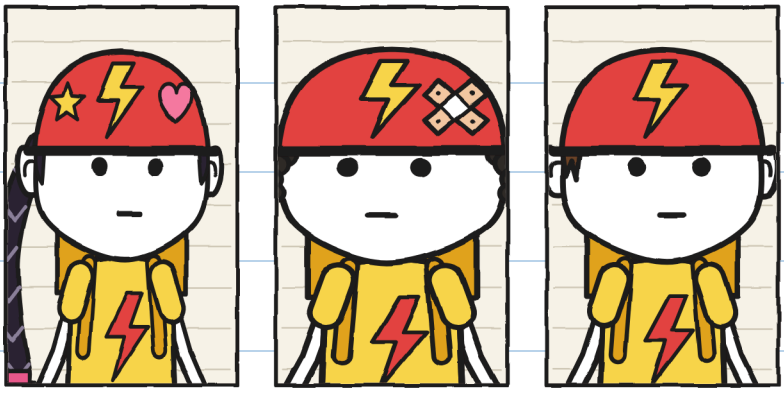
「ちがう よ」と フリータは いった。



まじめな かおで。ぜんぜん たすけない。 —J.

イナズマびんは 5じ10ぷんに
とおる。さんにん、いちれつ。

イナズマびんの カード



ゾーイ、「ロケット」：
いちばん はやい。
あだなを つける。

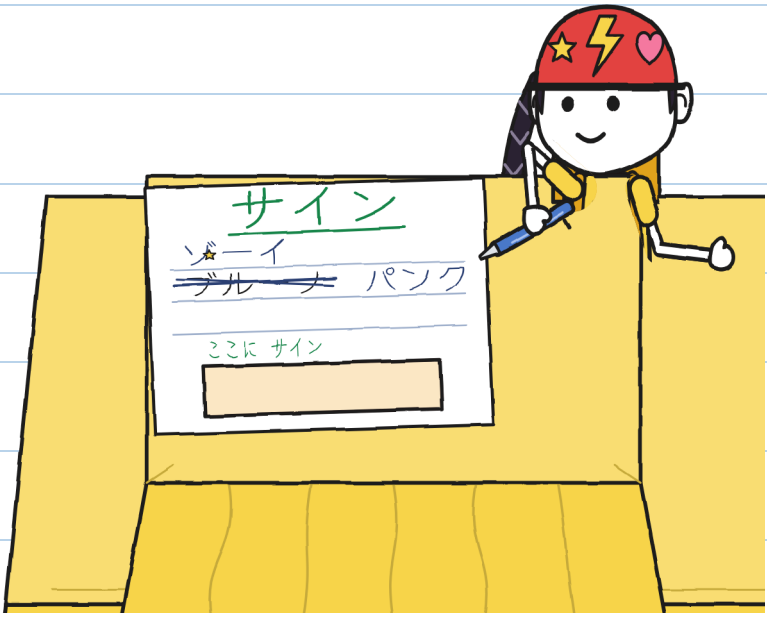
ブルーノ、「パンク」：
1かい パンクした。
2ねん まえ。

トニョ：
あだなは ない。
まだ。

「サイン？ わたしたちの？」
と ゾーイは いった。
ブレーキを かけて おりた。

ふたりに サインを たのんだ
ひとは いない。 —J.

ゾーイは「ブルーノ」を けして
「パンク」と かいた。
「イナズマびんでは あだなは
とれない」と ブルーノは いった。



トニョは まだ じてんしゃに
のって いた。つくえを みて いた。

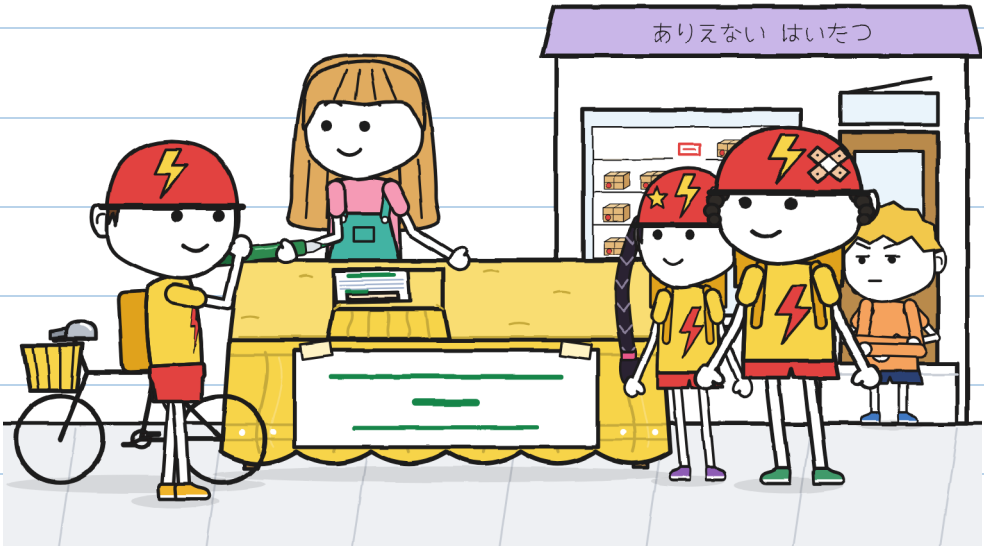
「つぎは トニョの ばん」

と フリータは いった。

みどりの ペンを わたした。

トニョは じてんしゃを

おりて、せすじを のばした。



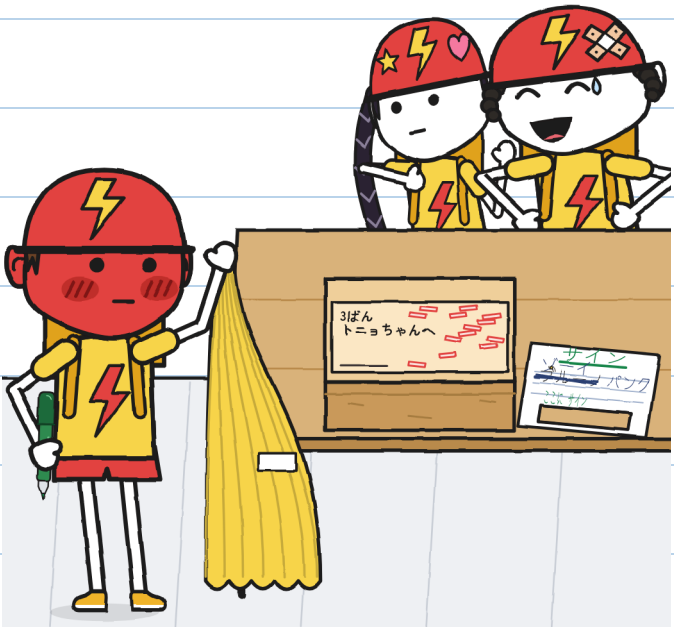
だんから ぜんぶ みえた。

ぼくは だまって いた。

ぼくは　たちあがった。
「トニョ、ま……」
おそかった。テーブルクロスの　したで
なにかが　なった。



トニョは テーブルクロスを
もちあげた。



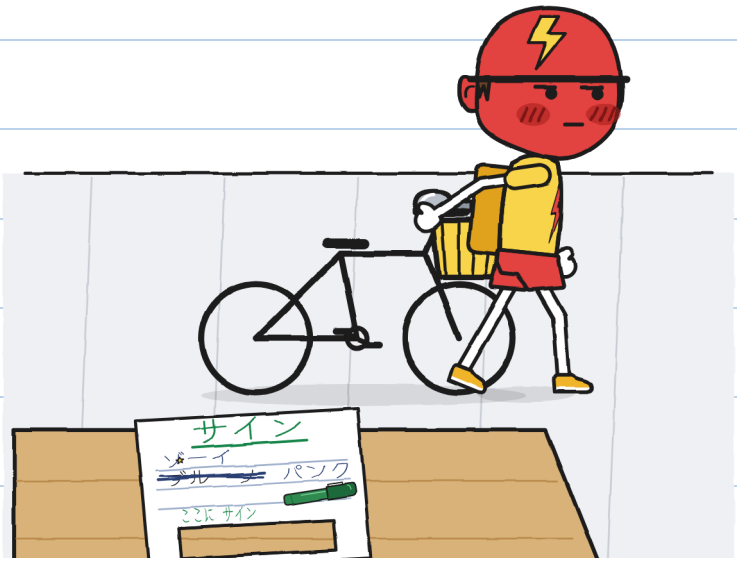
「ト・ニョ・ちゃ・ん・
へ」と ゾーイが よんだ。
「トニョちゃん？」と ブルーノが
わらった。ゾーイは わらわない。

トニョは ペンに キャップを

した。サインは しない まま。

「イナズマびんは

あなに サインしない」

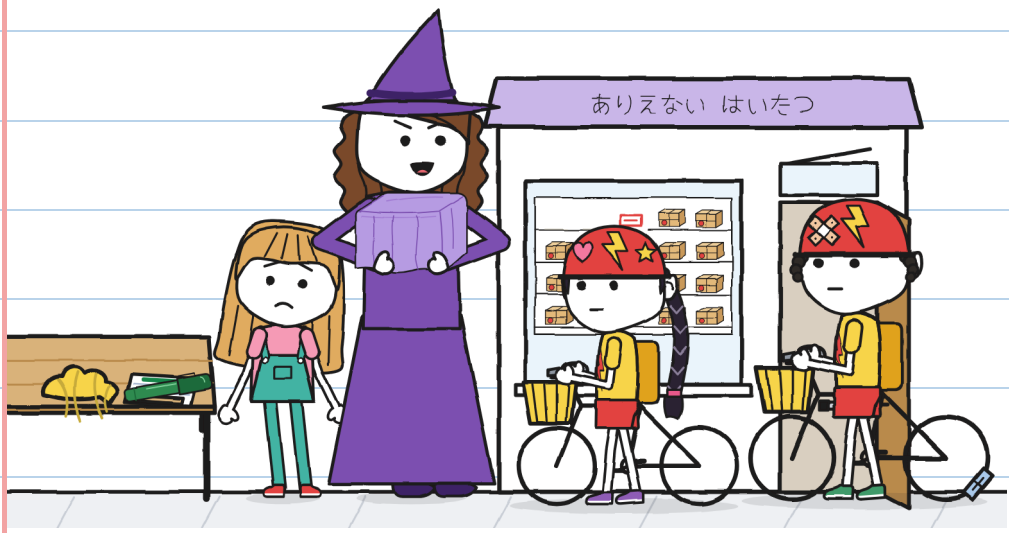


はずかしさの あかじゃ ない。

おこりの あか だった。

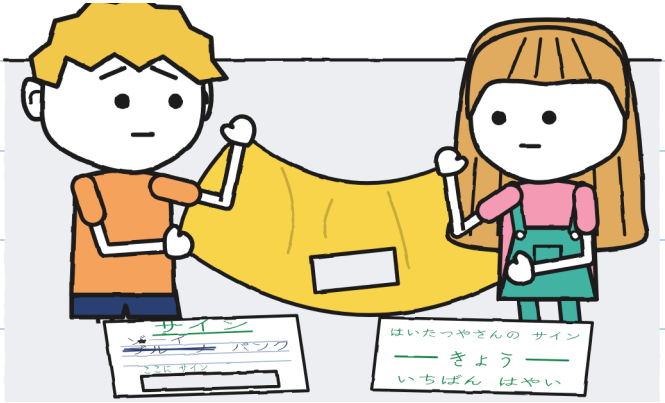
その あかには ばんごうが ない。 —J.

マラさんは むらさきの
ぬのを 3ばんに かけた。
「これは とどいて いない」
と マラさんは いった。
「トニョの もんだいだ」



ベルも ならさずに いって しまった。

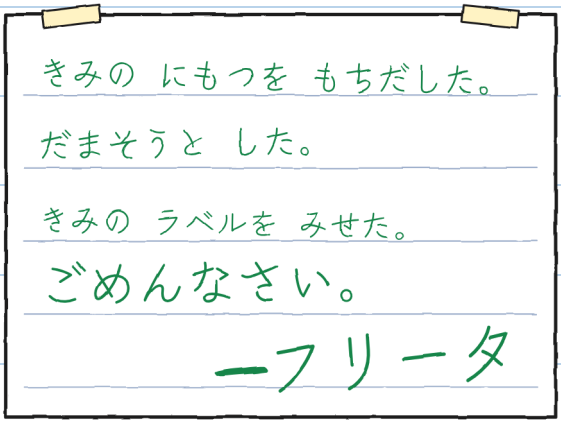
ぼくは　フリータの　かたづけを
てつだった。サインが
ふたつと、あなが　ひとつ。
「しらせるのが　おそかった」
と　ぼくは　いった。



フリータは　マラさんに
ぜんぶ　はなした。
「トニョには　あなたが　はなしなさい」
と　マラさんは　いった。

すいようびに、トニョは
とまらずに とおった。フリータは
かみを もって まって いた。

おわび

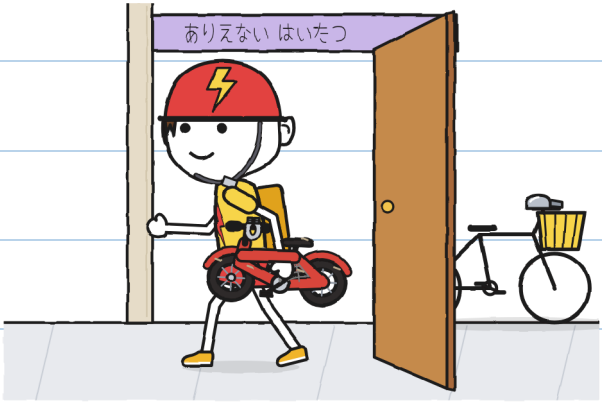


トニョは じてんしゃの
うえから かみを よんだ。
「ゆるして くれる？」
「よんだ」
ぜんぶの なまえで サインした。 ーJ.

だい4しょう

ちいさな じてんしゃ

トニョは ちいさな
じてんしゃを もって きた。



ちいさい ころの トニョの
じてんしゃ だった。
「あの おとを おぼえて いる
きがする」と トニョは いった。

「3ばんを　あけたい」

マラさんは　ぼくたちを　みせの

おくの　へやに　つれて　いった。

「あけるのは　サインじゃ　ない」



「わたしも　いて　いい？」

と　フリータは　きいた。

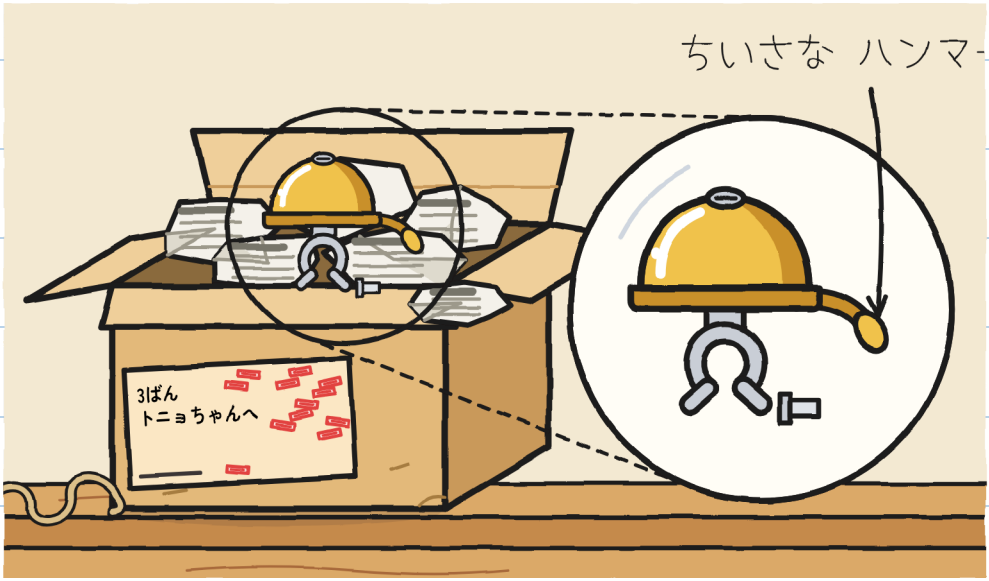
「さわらないなら」

と　トニョは　いった。

「なにも　さわらない」

トニョは ひもを ほどいた。

かみの なかに……



じてんしゃの ちいさな

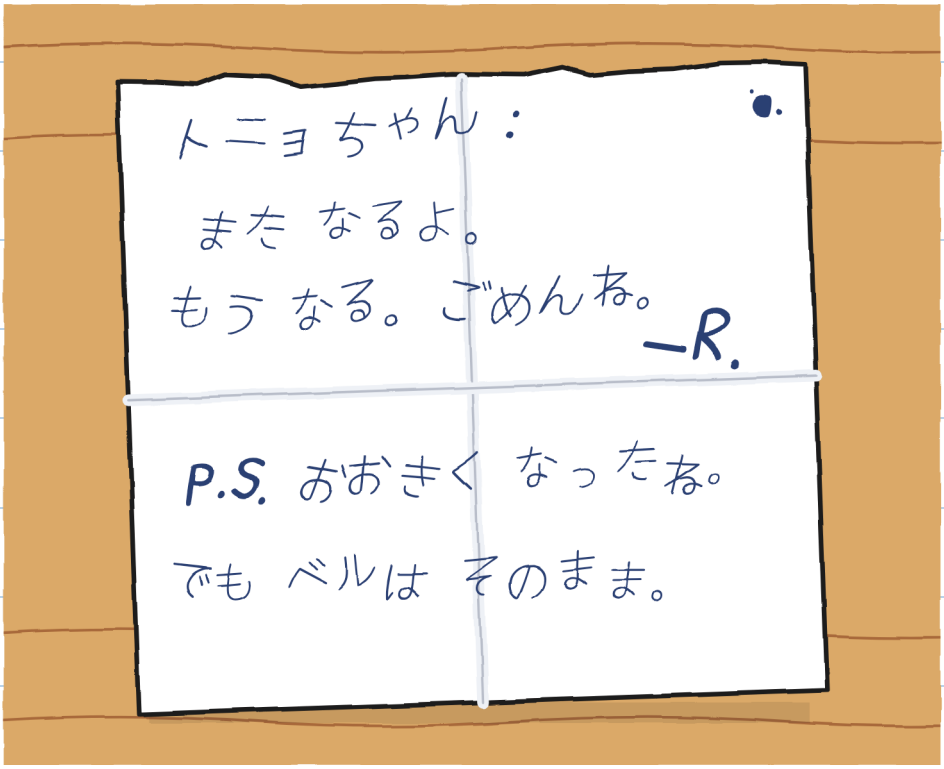
ベル。きんいろ。

1ばんは かみついた。2ばんは

はしった。3ばんは なる だけ。

ベルだ。すき。 —J.

したに おりたたんだ メモが あった。

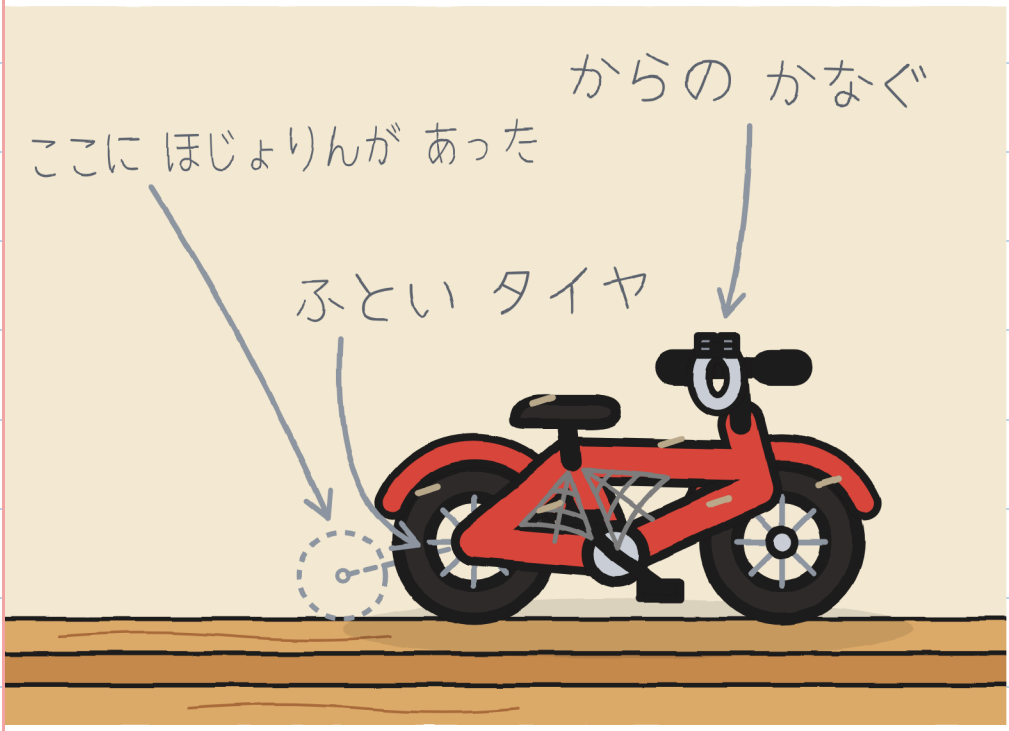


トニョは 2かい よんだ。

「ひどい じだな」と いった。

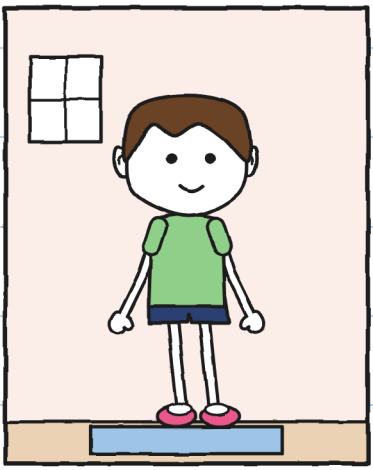
R.は やくそくを おくれて まもる。 —J.

それから トニョは ちいさな
じてんしゃを つくえに のせた。

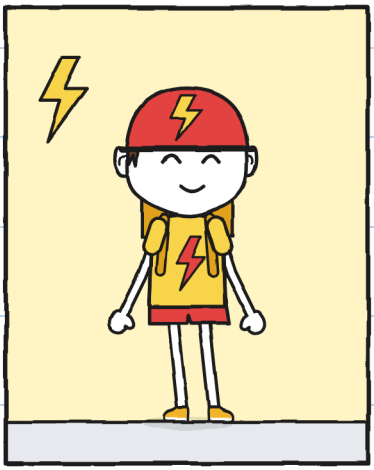


「ぼくのだった。ある ひ ならなく
なった。だれかが『なおして あげる』
と いった。かおは おぼえて いない」

「うちでは トニョちゃんと
よばれる」と トニョは いった。
「イナズマびんでは トニョ。
あそこでは あだなは とれない」



うちでは：トニョちゃん



イナズマびんでは：トニョ

「ブルーノは ぼくを トニョちゃんと
6かい よんだ」と トニョは いった。
フリータは ちいさく なった。

「まだ のれる？」

と フリータが きいた。

トニョは すわった。



のれた。まあ、なんとか。

マラさんは わらいそうに なった。

トニョも わらった。どようびから

ずっと わらって いなかった。

あかメーター：0。 —J.

「つけなくて いいんだよ」

と ぼくは いった。

「しってる」と トニョは いった。

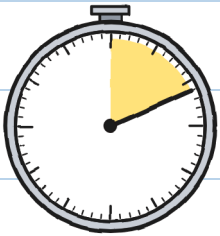
トニョは はじめて きいた

みたいに ぼくを みた。

フリータは 11ぷん

だまって きいて いた。





11ぷん

11ぷん。したが しびれた。 —J.

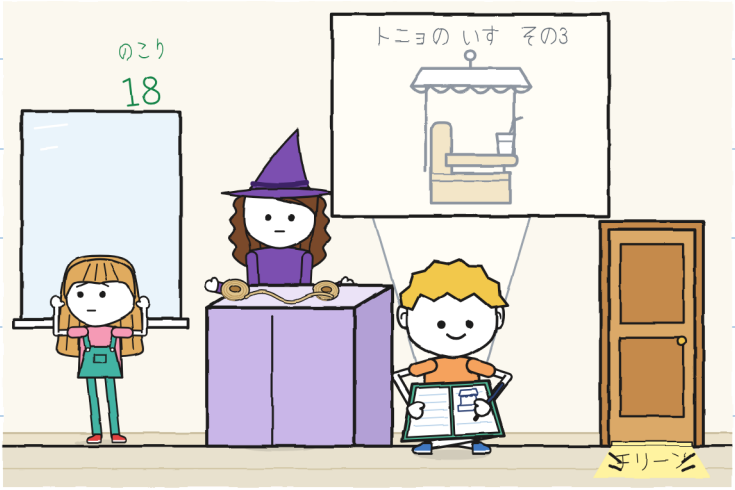
「ひとりで ためしたい」

と トニョは いった。

ぼくたちは でた。トニョは

おくの へやを しめた。

ぼくは トニョの いすを かいた。



チリーン。

どようびと おなじ チリーン。

そして もう ひとつ。

トニョは　ベルを　もって　でた。

「あしたまで　もって　いく。

サインは　しない」

「よあけに　もどるよ」

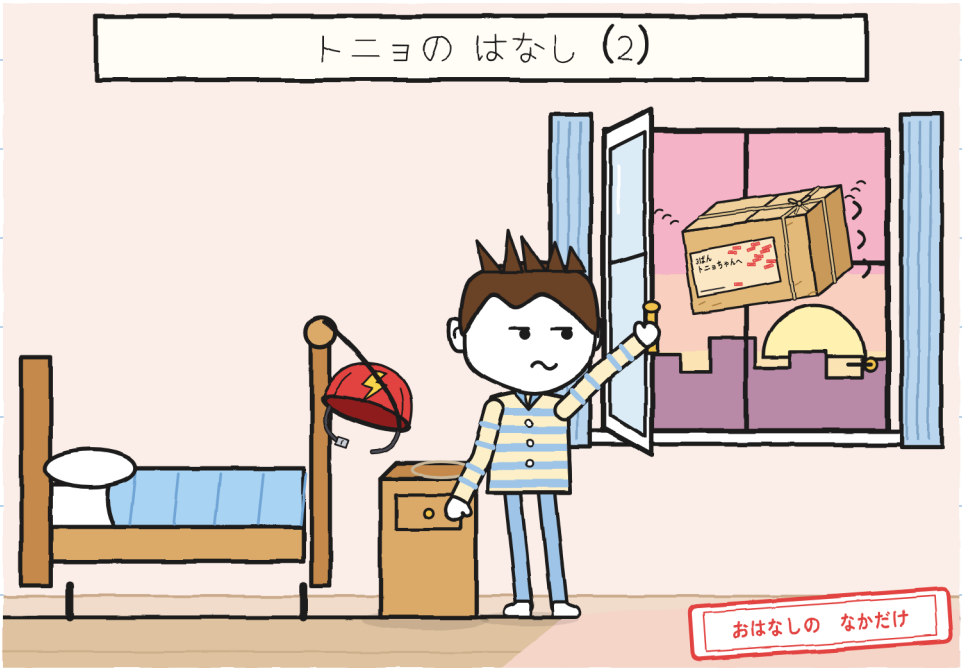
と　マラさんは　いった。



あと　14じかん。　—J.

きんようびの もどり：14かいめ。

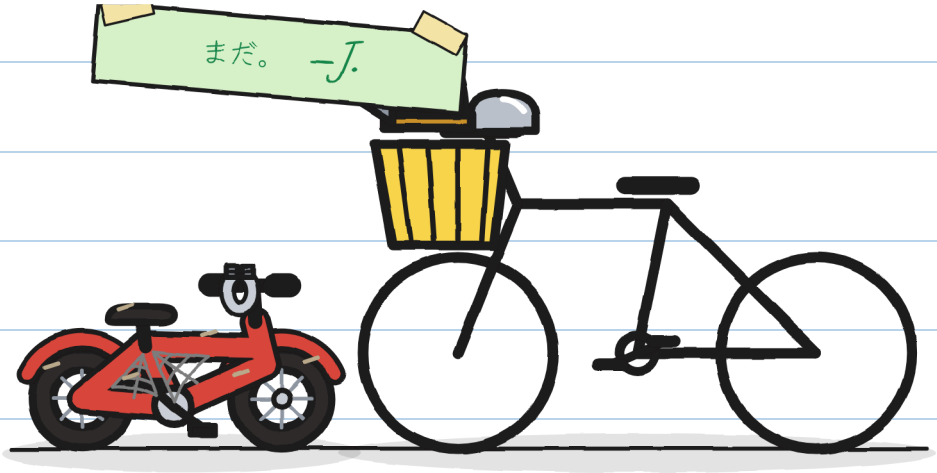
トニョが はなして くれた：



「3ばんは ぼくの ベッドの よこの だいで ねた。ガラスを たたく ので、まどを あけて やった」

なんて ていねい。 -J.

ぼくは トニョの ふたつの
じてんしゃを かいた。
ベルを かきたした。
フリータは うえに
かみきれを はった。



まえ　　いま

フリータの いう とおり
だった。ちょっと くやしい。

だい5しょう

ひみつの はなし

3ばんは たなに あった。

トニョは とおくから みて いた。

フリータは なにかを

じゅんびして いた。こわかった。

ふたつの かみ。



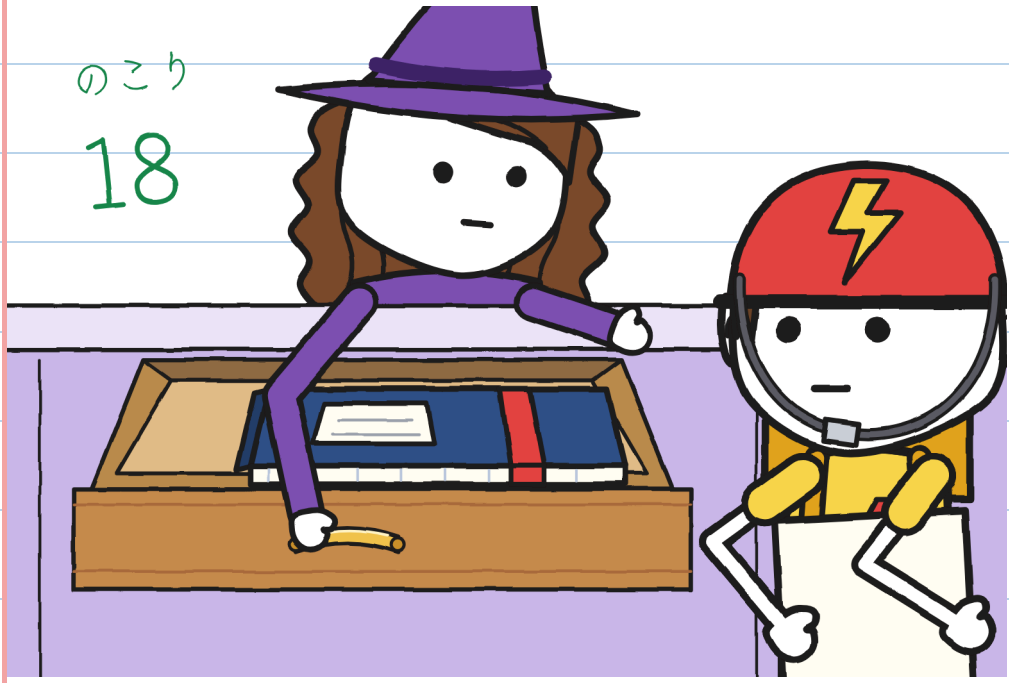
「サインしたら、だれが　する？」

「わたしと　わたしの　ほん。

イナズマびんには　いわない」

のこり

18



なまえは　ひきだしの　なか。　—J.

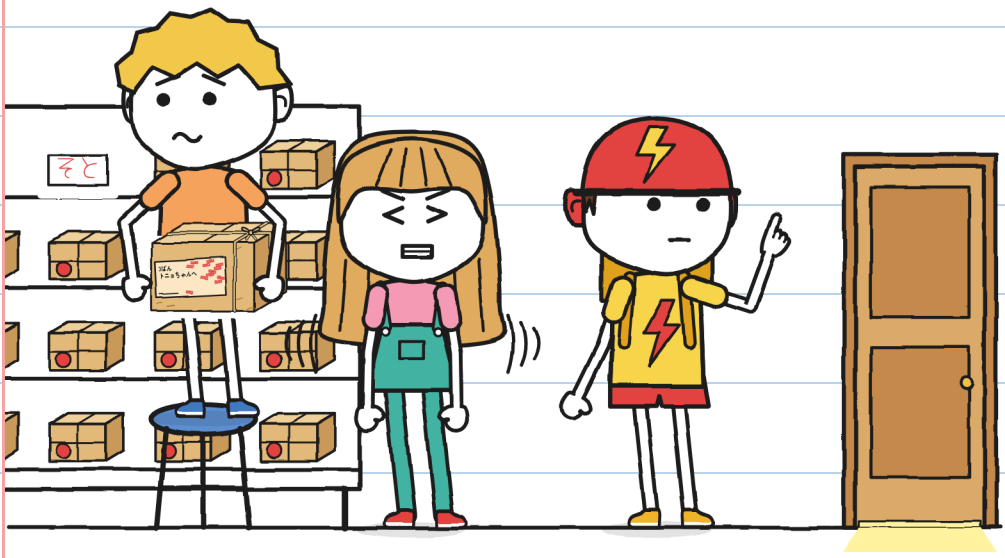
「Bに する。おくの へやで」

と トニョは いった。

フリータは とびはねなかった。

じっと じっと して いた。

「ふたりと いっしょに」



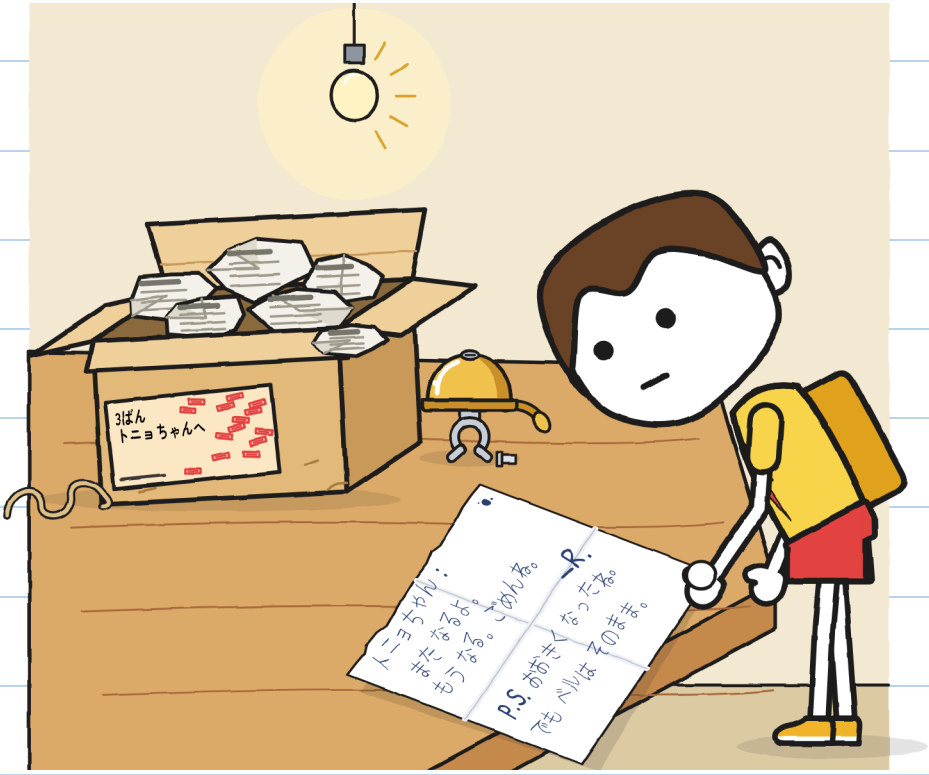
トニョは ベルと メモを だした。

「サインする まえに、

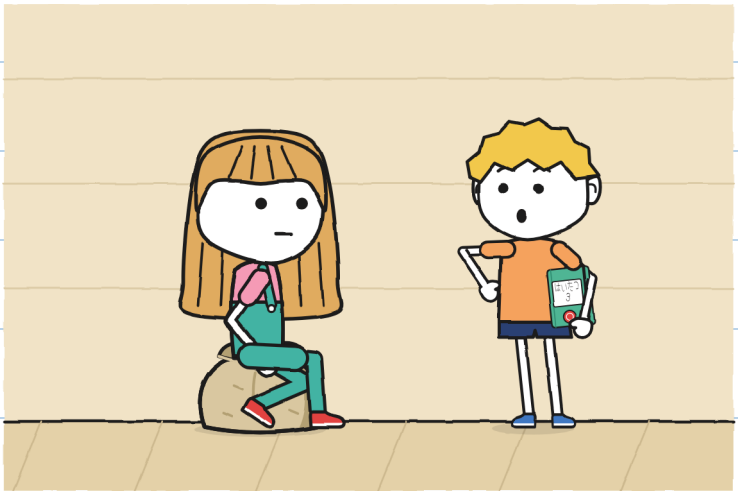
なにに サインするか みる」

フリータは Tシャツと おなじ

ピンクいろに なった。



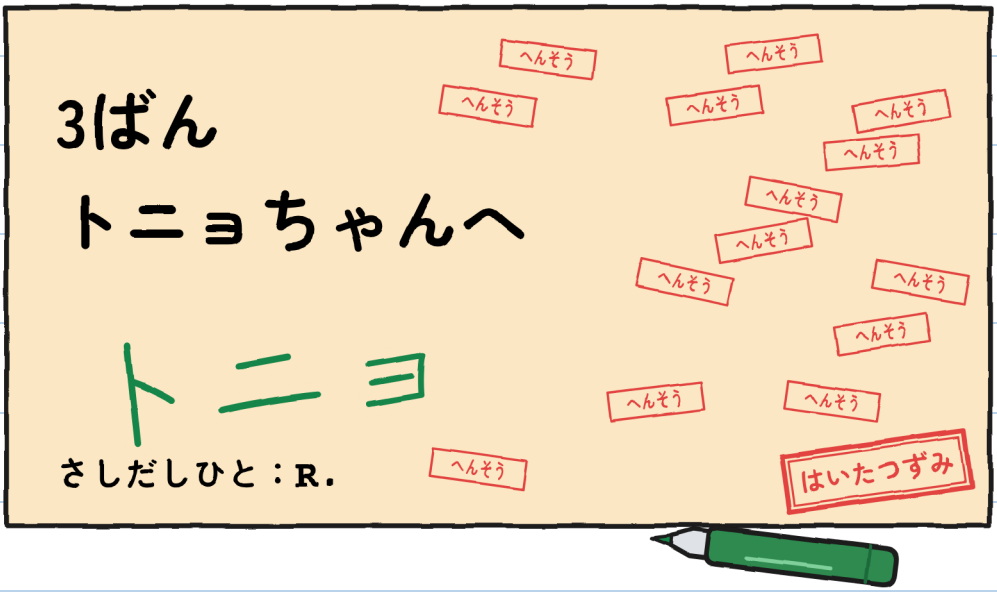
フリータは ふくろの
うえに すわった。
「なにして るの？」
と ぼくは きいた。
「てを おしりの したに して
すわる。てを ださない ために」



ぼくは ノートを とじた。

あとで グニが ぜんぶ かきとめた。 —J.

トニョは ペンの キャップを
とって、サインした。



ラベルには「トニョちゃん」。
サインは「トニョ」。
「サインするのは うけとる
ひと」と マラさんは いった。

マラさんは はいたつを きろくした。

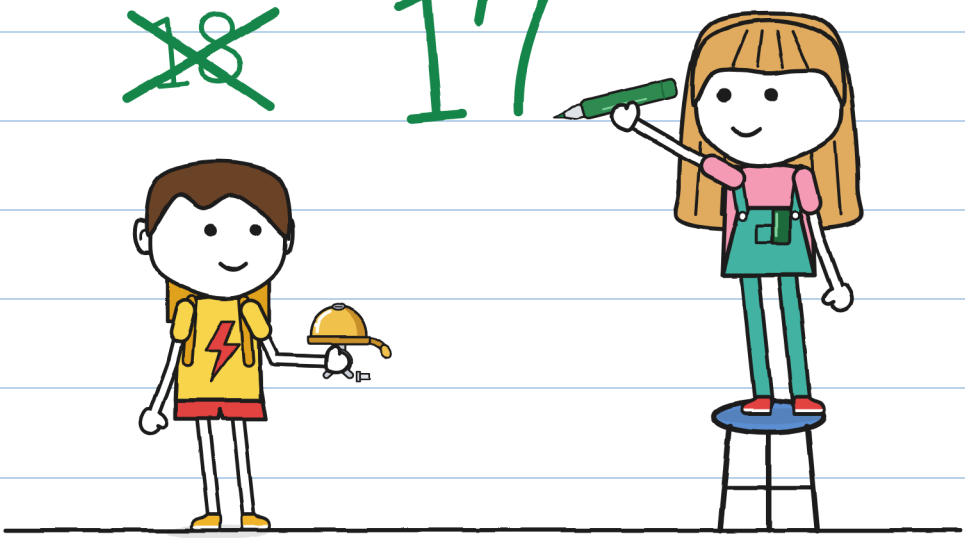
「はりがみを かえて いい？」

と フリータは トニョに きいた。

「いいよ」

のこり

~~18~~ 17



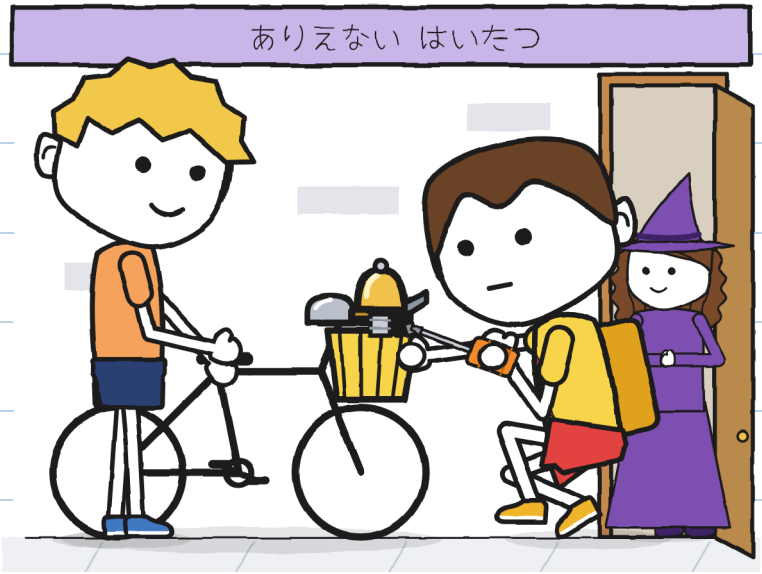
さきに きいた。かいて おいて。 —J.

「イナズマびんの ベルは？」

と ぼくは きいた。

「あれは イナズマびんの。

これは ぼくの」

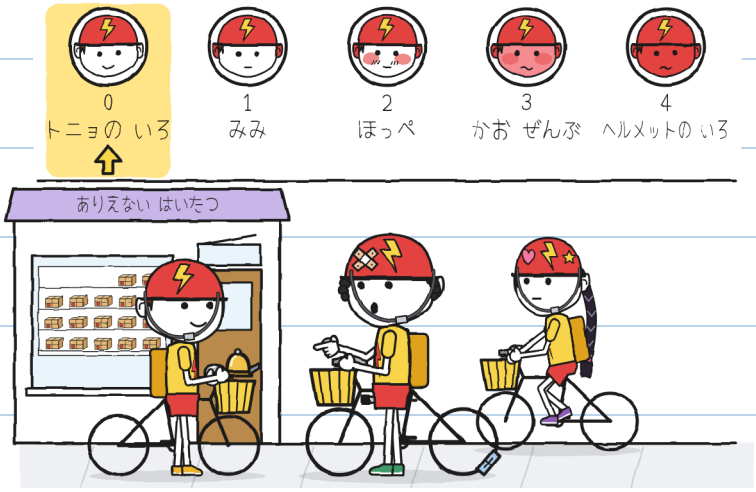


トニョは ベルを つけた。

ぼくは じてんしゃを おさえた。

チリーン。

「その なって いる の、
なに？」と ブルーノが きいた。
「ぼくの ベルだ」
と トニョは いった。
ぼくは トニョの みみを
みた：あかく ない。

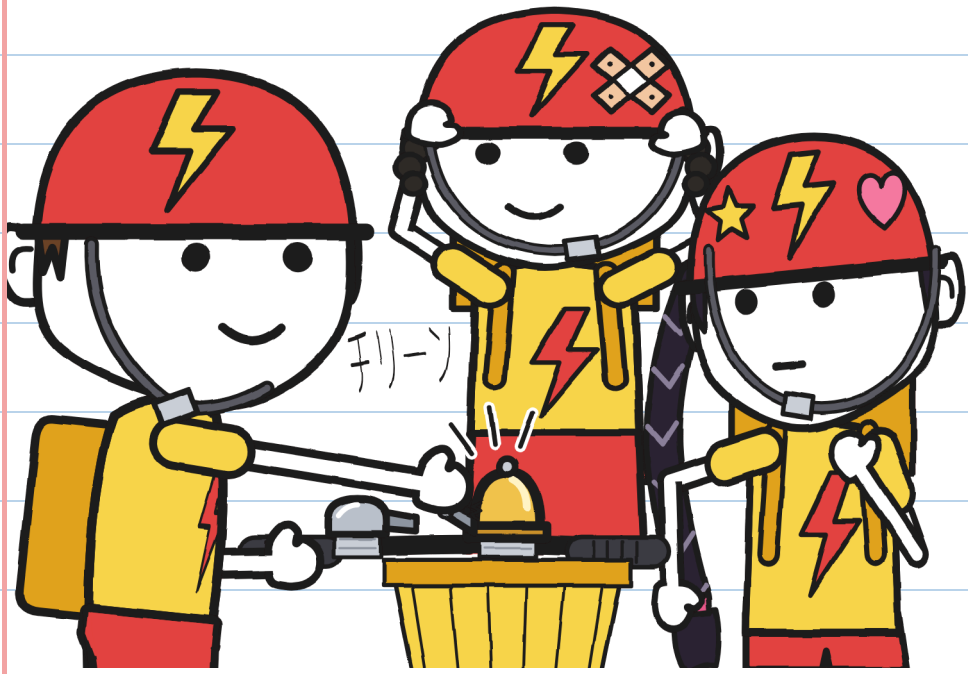


「ぼくの なまえは トニョ。きみは？」
「ブルーノ」

トニョは ベルを ならした：チリーン。

「いい おと」と ゾーイは

いった。「おくれるよ、トニョ」



「トニョ」と いった。それだけ。 —J.

その よる、ぼくは ブラインドを
あげた まま に した。
「また みはり？」
と おかあさんが いった。
「きょうは なにも
おきない ように みはる」



ペンの キャップを あけた まま
ねた。まくらが みどり。 —J.

あさに なった。

なにも ならなかった。

チリーンも ならない。

ぼくの みちで いちばん すてきな
しずけさ だ。



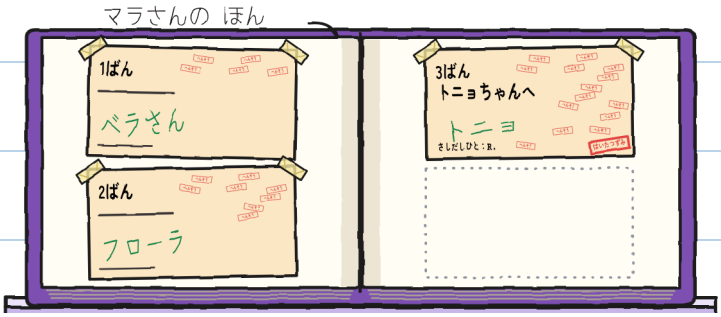
だい6しょう

いまのところ

どようびに ぼくは たなを かいた。

にもつは 17こ。あいた ところが 3つ。

マラさんは ラベルを ほんに はった。



みっつとも おくれて とどいた。

みっつとも とどいた。

ペンを わたした だけ。 —J.

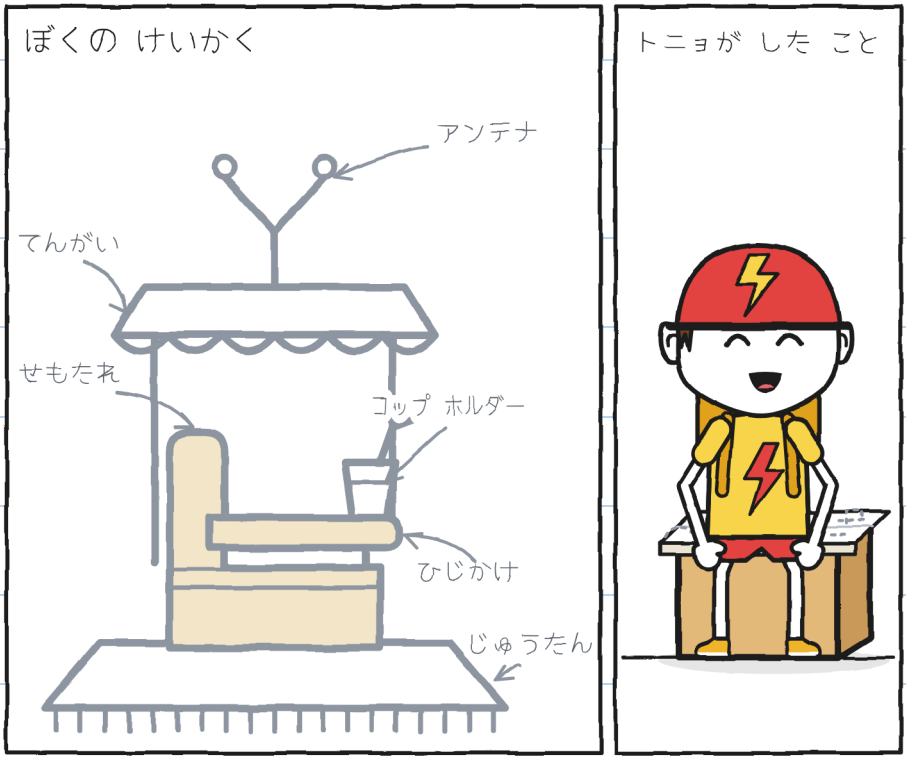
トニョは はこに すわった。
「いまのところ、きみの いす」
と マラさんは いった。
「いまのところは これで
いい」と トニョは いった。

のこり
17



「いまのところ」は なんねんも
つづく ことが ある。 —J.

ぼくは トニョに いすの えを
みせた。いっしゅうかん かかった。



「それ、もらって いい？」
トニョは おりたたんで、
その うえに すわった。

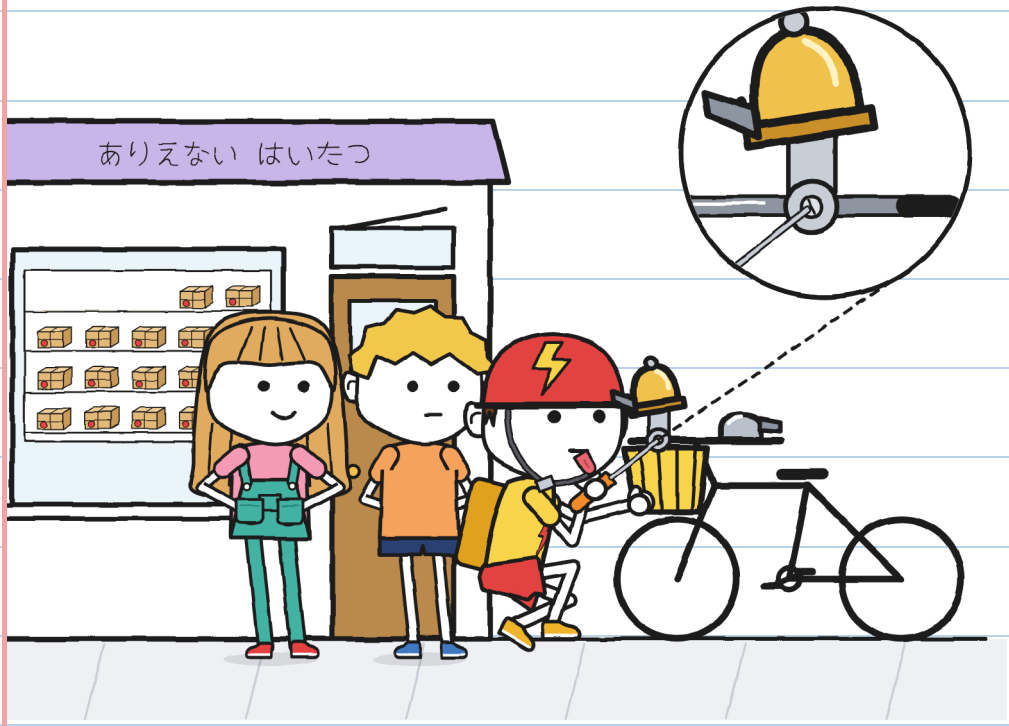
「おさえて あげる」

と ぼくは いった。

「ひとりで できる」

と トニョは いった。

ぼくは ねじを みて いた。

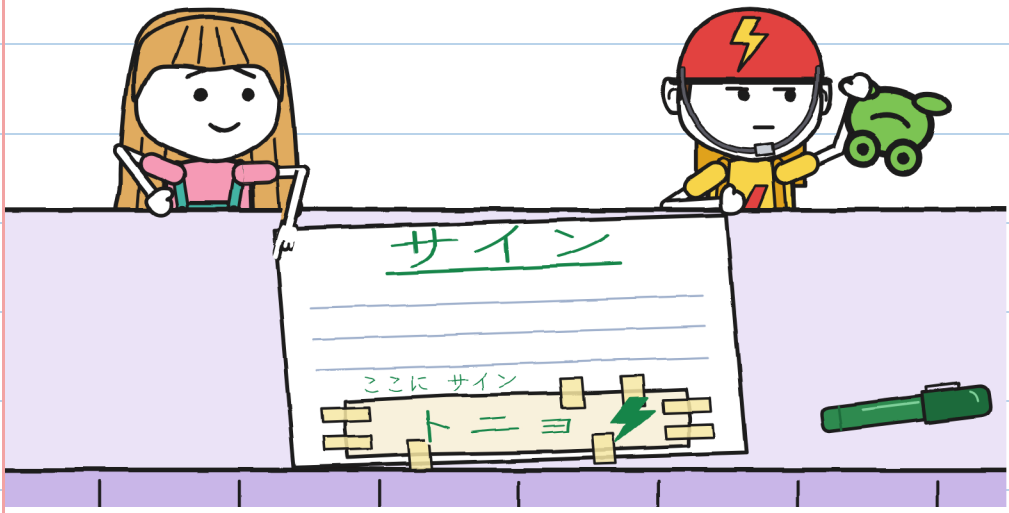


フリータは　サインの　かみを　だした。

「ほんものの　サインを　くれる？」

トニョは　かみの　したを　みた。

「いいよ」



とうぜん　だよ。　—J.

ベレーぼうの おじいさんが

ゆっくり わたって いた。

トニョは ブレーキを かけて まった。

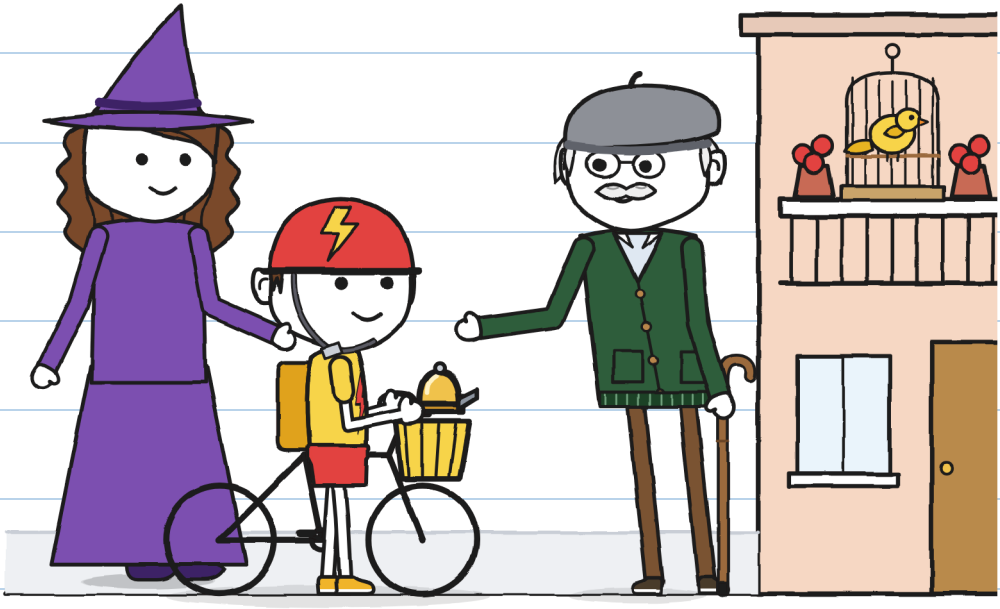
チリーン。



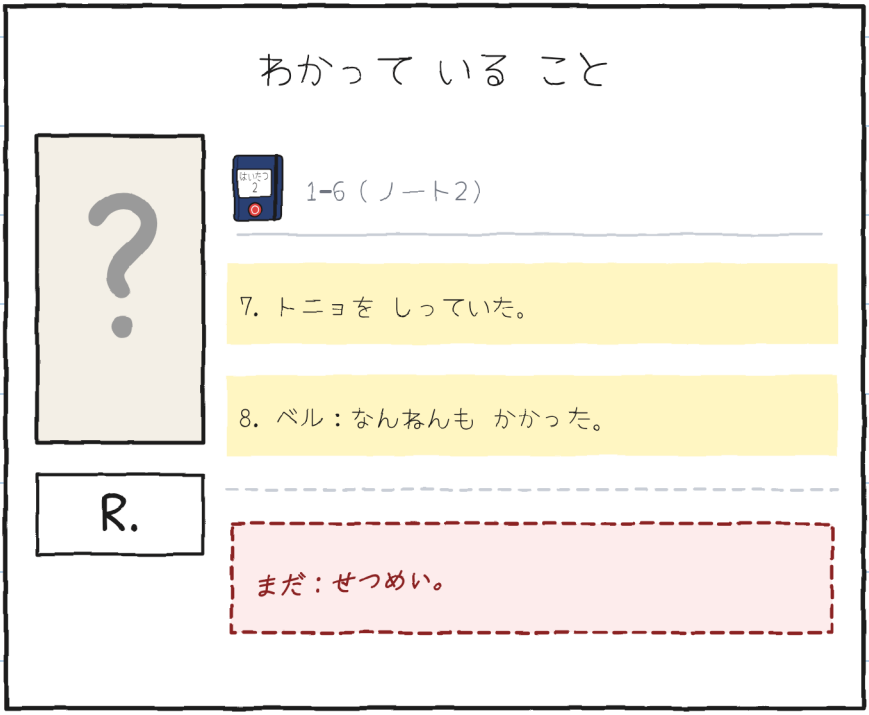
おじいさんは つえを

あげて あいさつした。

「アントニオさんよ。2ばんめの
トニョちゃん」と マラさんは いった。
「なまえを こうかん しようか？」
と おじいさんは きいた。
「いまのところ、いいえ」



てがかりは もう むっつ
あった。ふたつ ふやした。



「おれいを いうの？」
と フリータが きいた。
「おれいと もんく。りょうほう」

1じに ベラさんが
パンくずを つれて きた。
「パンくずに あんぜんな
ばしょが ひつよう」



パンくずは ぼくの「ぼくじゃ
ない」の かおを した。

あなたの かお、そっくり。
めんも ついて いる。 —J.

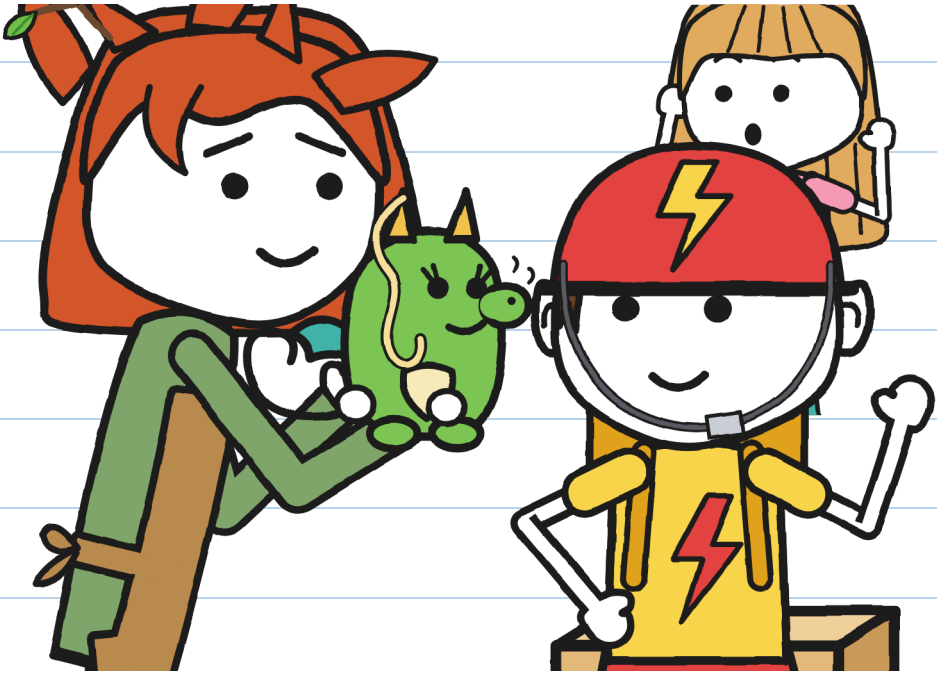
「はやい ひとが ひつよう？」

と トニョは きいた。

「まてる ひとが いい」

と ベラさんは いった。

「ぼくも まてる」

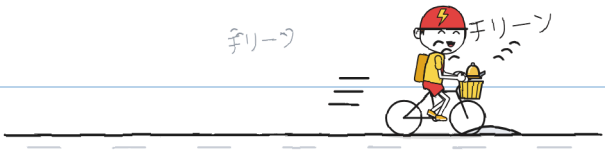


わたしも まてる。もう いい？ —J.

3ばんの はいたつ。

それぞれ かかった じかん：

	イナズマびん：10ぷん。
	R.：なんねんも。
	トニョ：むいか。
	フリータ：11ぷん。



トニョは はいたつに でた。

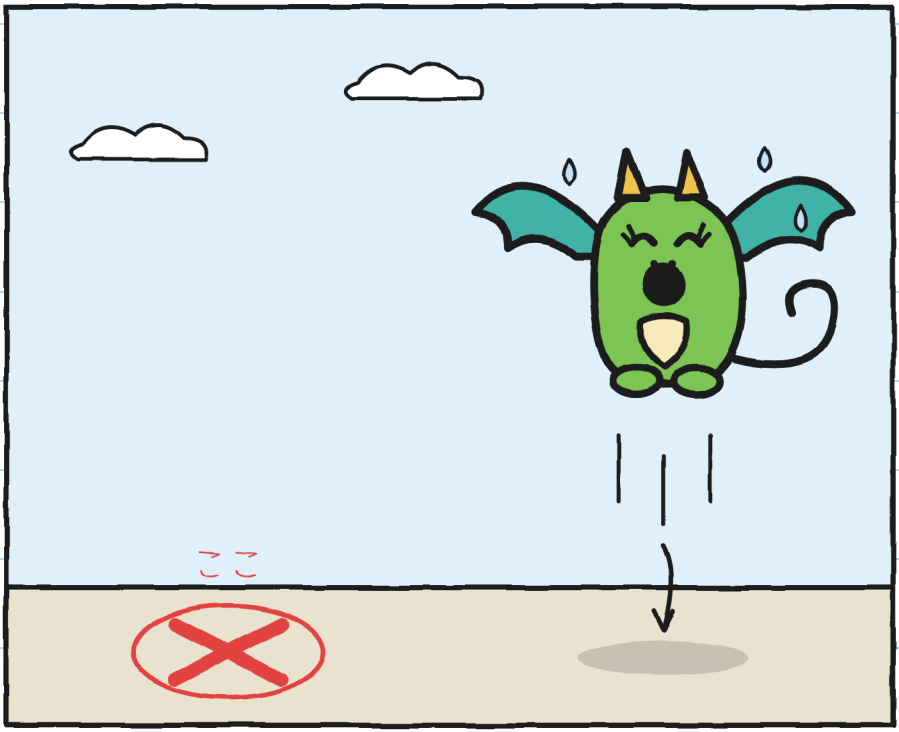
チリーンと なった。

こんどは トニョが ならして いた。

わたしは まだ ひとりで なる。 —J.

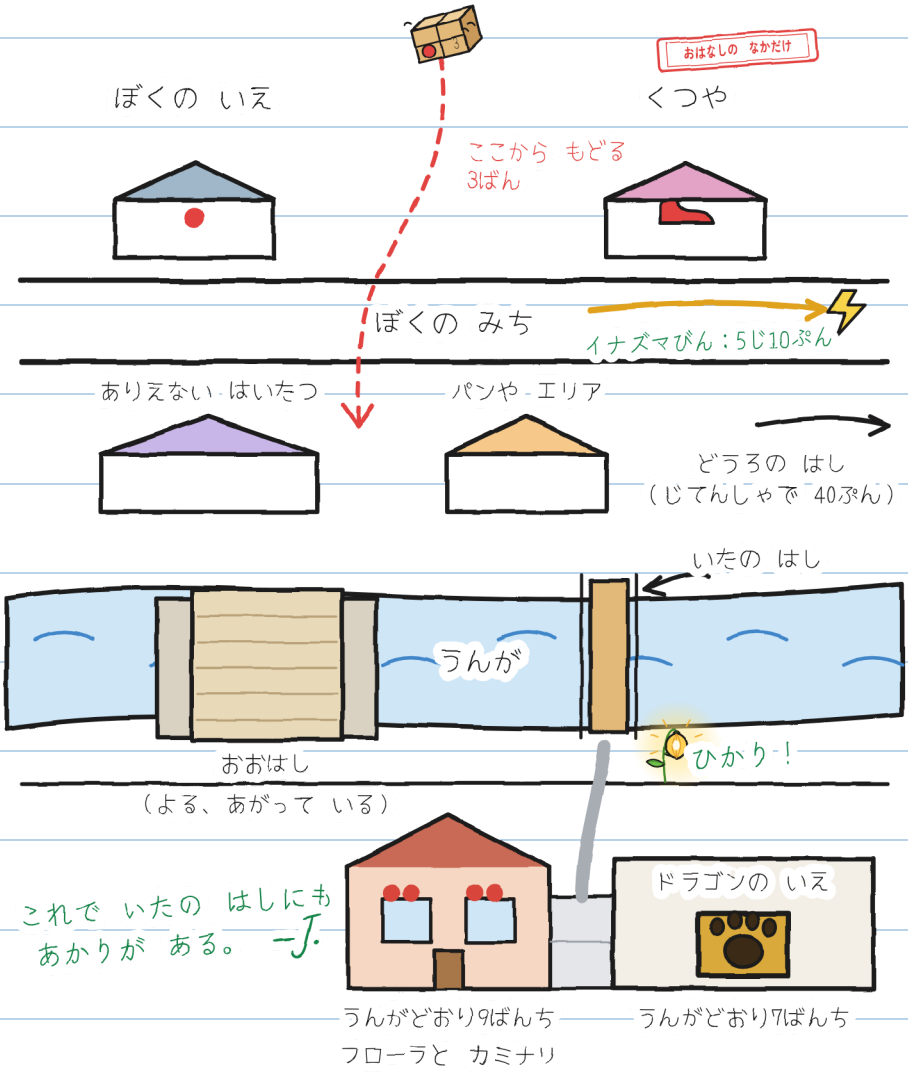
ありえない はいたつ ・4

（もうすぐ）



パンくずは どこに おりる？ ーJ.

まちの ちず その3


おはなしの なかだけ
ぼくの いえ
くつや
ここから もどる
3ばん
ぼくの みち
イナズマびん：5じ10ぷん
ありえない はいたつ
パンや エリア
どうろの はし
（じてんしゃで 40ぷん）
いたの はし
うんが
ひかり！
おおはし
（よる、あがって いる）
これで いたの はしにも
あかりが ある。 -J.
ドラゴンの いえ
うんがどおり9ばんち
フローラと カミナリ
うんがどおり7ばんち

きみは なんて よばれる？

トニョは トニョちゃんと
よばれて いた。いまは じぶんで
なまえを えらぶ。きみは？

こう よんで ほしい……

こうも よばれる……

こうは よばないで……

わたしは フリータ。

サインする ときは「J.」。 —J.

ひとつの おはなし、むっつの サイズ

六つの サイズが ある。3さいから
16さいまで。ことばは 20いじょう。

サイズ XXS · PRE-A1
マラさんと トニョが わらう。 あかい じてんしゃが みえる？

サイズ XS · A1
マラさんは わらいそうに なった。トニョも わらった。どようびから ずっと わらって いなかった。

サイズ S · A2
マラさんが ふっと おとを たてた。ほとんど わらいだった。トニョも わらった。土曜日から トニョが わらうのを 見て いなかった。

サイズ M · B1
マラさんが音をたてた。笑い声みたいだった。トニョも笑った。土曜日から、トニョが笑うのを見ていなかった。

サイズ L · B2
マラさんが、ほかの人だったら笑い声になるような音をたてた。トニョも笑った。土曜日から、トニョが笑うのを見ていなかった。

サイズ XL · B2-C1
イラスト小説 · 13+
CEFRのレベルは目安です。

おなじ チリーン。 —J.

おうちの ひとと せんせいへ
linguaula.comで しょうごとに れんしゅう

本物の自転車：やること

1. ヘルメットはいつも、しっかりとめる。
   「すぐそこまで」のときも。
2. 見えるように、聞こえるように：ライト、
   明るい色の服、ベル。ベルは知らせるもの。
   命令するものではない。
3. 両手でハンドルをにぎる。
   何かに気をとられたら、安全な場所で止まる。
4. 歩道は歩く人のもの。
   そこでは自転車を押して歩く。道をわたる前は、
   止まって、見る。

「おはなしの　なかだけ」のはんこは、
おはなしでは起きても、道では起きないことにおす。

じてんしゃを　みる

